

報道関係者と民博との懇談会 話題一覧

2026年2月19日(木)15:30~17:00

懇談会

1. 挨拶

— 関 雄二 (館長) —

2. ニュースリリース

●みんなの最新情報と今後3カ月の行事をご案内いたします。

— 山中 由里子 (議長) —

資料1

3. 特別展関連 研究公演「シルクロードの音色——中央アジアの楽器と伝統音楽」

[詳しくはこちら](#)

本研究公演は、中央アジアの歴史の中で生み出された音楽、とくにウズベキスタンとカザフスタンの伝統音楽を中心に紹介します。伝統音楽の演奏とともに、シルクロードをつうじて各地に広がった楽器の解説も交えながら、中央アジアの伝統的な音楽を広く知っていただくとともに、特別展へのいっそうの理解を深める機会としていただきたいと思います。



日 時：2026年3月28日(土)13時30分~16時(12時30分開場)

会 場：みんなインテリジェントホール(講堂)(定員400名)

参加費：要展示観覧券(一般780円、特別展をご覧になる場合は一般1,200円)※イベント参加費は不要

出 演：駒崎万集(二弦楽器)、ドイラ(太鼓)奏者、

イナラ・セリクパエヴァ(ドンブラ(二弦楽器)奏者)、高橋直己(カザフ民謡 歌手)

司 会：寺村裕史(本館 准教授)、末森薫(本館 准教授)

主 催：国立民族学博物館

※一般受付/2月24日(火)~3月25日(水)

— 末森 薫 (人類基礎理論研究部 准教授) —

4. 企画展関連 みんなの映画会

[詳しくはこちら](#)

『秘境ヒマラヤ』

1950年代のドルポの様子を記録した貴重な民族誌映像を上映します。本作の鑑賞および解説をとおして、企画展で焦点をあてるドルポの地域的特徴や文化を深堀します。

※本作には鳥葬などセンシティブな場面が含まれます。



バクチャム(仮面おどり)を取材する
大森栄(1958年、高山龍三撮影)

『国立民族学博物館ネパール写真データベース』(C)

日時 2026年4月12日(日)13時30分～16時(12時30分開場)
会場 みんなくインテリジェントホール(講堂)(定員350名)
参加費 要展示観覧券(一般780円、特別展をご覧になる場合は一般1,200円)※イベント参加費は不要
司会 末森薫(本館 准教授)
解説 南真木人(本館 教授)、工藤さくら(本館 特任助教・人文知コミュニケーター)、
稲葉香(美容師・ドルポ研究家・写真家)
※事前申込制(本人を含む2名まで)、先着順
※一般受付/3月9日(月)～4月8日(水)

— 末森 薫 (人類基礎理論研究部 准教授) —

5. 社会連携ワークショップ

資料2

「博物館と若者をつなぐものは何か?—アクセシビリティから考える 博物館の社会連携ワークショップ—」実施報告

国立民族学博物館と東京藝術大学の実践事例を共有し、「アクセシビリティ」の視点から、対話をとおして若年層への効果的なアプローチを探るワークショップについて、ご報告いたします。



— 邱 君妮 (ちょう ちゆんに) (学術資源研究開発センター 機関研究員) —

6. 最新の研究紹介

資料3

『近代日本におけるイスラームの転回—漂泊する知の考古学』

西洋と中国という経路によってもたらされ、仏教やアジア主義といったフィルターを通して変容し、やがてその一部は忘れ去られていった大正初期までの日本におけるイスラームの知の系譜を掘り起こしました。

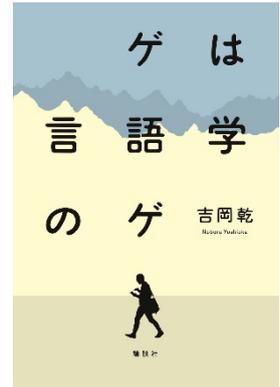


— 黒田 賢治 (グローバル現象研究部 准教授) —

7. 最新の研究紹介

『ゲは言語学のゲ』

月刊文芸誌『群像』で2年間連載したエッセイ（一部）の書籍化。語学や個別言語ではなく言語学をテーマとしたエッセイ集で、言語学的な物事の考えかたを紹介しつつ、そういった視点から世の中を見ると何が見えるかを語ります。



— 吉岡 乾（人類基礎理論研究部 准教授） —

※その他の配布資料 外国人研究員受入一覧（資料5）、刊行物報告書（資料6）、特別展チラシ、企画展チラシ



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

お問い合わせ

国立民族学博物館 総務課 広報係

電話:06-6878-8560(直通) Fax:06-6875-0401 Mail:koho@minpaku.ac.jp